

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第6部門第1区分
【発行日】平成17年9月8日(2005.9.8)

【公開番号】特開2002-333464(P2002-333464A)

【公開日】平成14年11月22日(2002.11.22)

【出願番号】特願2002-92565(P2002-92565)

【国際特許分類第7版】

G 01 R 31/28

G 01 R 31/319

【F I】

G 01 R 31/28 H

G 01 R 31/28 R

【手続補正書】

【提出日】平成17年3月17日(2005.3.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

刺激信号を被試験素子(DUT)へと印加する信号発生器と、

印加された前記刺激信号に対する応答信号を前記DUTから受信する受信ユニットと、

前記応答信号のデータの流れを前記DUTと前記受信ユニットとの間で同期させる同期ユニットとを具備した、前記DUTを試験する試験装置であつて、前記同期ユニットが、第一のクロック信号を前記DUTから、第二のクロック信号を前記試験装置から受けることを特徴とし、

前記同期ユニットは、

データをバッファするバッファと、

前記DUTからのデータを前記バッファへと書き込む書き込みユニットと、

前記バッファから前記受信ユニットへと供給すべきデータを読み出す読み出しユニットとを含むことを特徴とし、前記バッファに対する書き込みアクセスが前記第一のクロック信号により制御され、前記バッファに対する読み出しアクセスが前記第二のクロック信号により制御されることを特徴とした前記DUTを試験する試験装置。

【請求項2】

前記バッファが複数のレジスタを備えたレジスタ構造を持つことを特徴とした請求項1に記載の試験装置。

【請求項3】

前記複数のレジスタ間を移動して前記複数のレジスタのうち前記DUTからのデータを受信してバッファするべき1つを定義する書き込みポインタと、前記複数のレジスタ間を移動して前記複数のレジスタのうち読み出しを行うべき1つを指示する読み出しポインタとを更に含む請求項2に記載の試験装置。

【請求項4】

前記書き込みポインタが、前記DUTからの連続データワードを様々なレジスタへと連続的に書き込む為に前記第一のクロック信号で動作するよう適合し、前記読み出しポインタが、前記複数のレジスタ中にバッファされた連続データワードを連続的に読み出す為に前記第二のクロック信号で動作するよう適合していることを特徴とする請求項3に記載の試験装置。

【請求項 5】

前記書き込みユニットが、前記第一のクロック信号により制御されるラッチを含み、これにより連続データワードを前記第一のクロック信号によってラッチし、これに従い前記バッファ中へと連続的に書き込むことが可能であることを特徴とする請求項 1ないし 4 のいずれかに記載の試験装置。

【請求項 6】

前記バッファが、第一の有効書き込みアクセスと第一の有効読み出しアクセスとの間に初期遅延時間を設けるように適合したことを特徴とする請求項 1ないし 5 のいずれかに記載の試験装置。

【請求項 7】

前記初期遅延時間が、書き込み及び読み出しアクセス間の最大期待差に依存して設定されることを特徴とする請求項 6 に記載の試験装置。

【請求項 8】

被試験素子（DUT）を試験する方法であって、

（a）刺激信号を前記DUTへ印加するステップと、

（b）前記刺激信号に呼応して前記DUTから送られるデータをバッファへと書き込む
ステップであって、前記バッファに対する書き込みアクセスが、前記DUTからの第一の
クロック信号により制御されることを特徴とするステップと、

（c）受信ユニットへ供給すべきデータを前記バッファから読み出すステップであって
、前記バッファに対する読み出しアクセスが前記受信ユニットからの第二のクロック信号
により制御されることを特徴とするステップと、

（d）前記刺激信号に呼応して、読み出された前記データを前記受信ユニットにより受
信するステップと
を含む方法。

【請求項 9】

第一の有効書き込みアクセス及び／又は第一の有効読み出しアクセスを初期化するス
テップを、更に含む請求項 8 に記載の方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】試験装置及びその方法